

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：27401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370049

研究課題名(和文) 中国近世期「陰符経」諸注の総合的研究

研究課題名(英文) Synthesis study of the Reception of the Yinfuling during Modern China

研究代表者

山田 俊 (YAMADA, TAKASHI)

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：30240021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：中国の近世、特に宋、金の『陰符経』諸注釈の内容を分析することで、近世中国思想史が受容した『陰符経』注釈の実態、『陰符経』諸注釈の相互関係と撰述時期、金末及び元初に北方中国で誕生した全真教への影響、南宋・朱熹の『朱子語類』に見られる道家文献としての『陰符経』理解の実態等に就いて、文献実証的に明らかにした。

研究成果の概要(英文)：By analyzing the contents of the reception of the Yinfuling during Modern China, have revealed acceptance of the Yinfuling in Modern China, mutality of the Receptions, impact on the Quanzhen School and Zhuxi's view of Yinfuling, etc.

研究分野：中国三教思想交渉史

キーワード：陰符経 唐淳 宋代 朱熹 全真教

## 1. 研究開始当初の背景

中国近世道教思想史上の大きな問題は、全真教成立の経緯の解明と、道教思想と朱子学の相互影響であると言える。

### (1) 全真教の成立について

金・元の際に北方中国で成立した全真教は、現在、中国大陸をほぼ埋め尽くすまでに発展しているが、その成立経緯は不明な点が多い。先駆的研究によって禅宗との関わりが指摘されているが(窪徳忠『中国の宗教改革』法蔵館、1967)、旧来の道教との関わりは不明な点が多く、その具体的な連続性は一つの謎である。

こうした中、全真教との具体的関わりが指摘されているのが金人・唐淳の『黄帝陰符経注』である。従って、全真教成立の背景を探る上で唐淳の『陰符経注』思想の解明は不可欠となるが、しかし、現存する『陰符経』諸注釈の思想的解明が全くなされておらず、唐淳『陰符経注』の中国思想史上の位置付け自体が手つかずの状態である。

### (2) 朱熹が見た『陰符経』について

王重陽より若干後の時代、南宋の朱熹はその『朱子語類』で道家・道教思想を批判する。その中で、『老子』『荘子』『列子』といった道家文献以外に、朱熹は特に『参同契』『陰符経』の二文献を重視している(山田『朱子語類』訳注 卷第一百二十五。汲古書院、2013)。そして、朱熹が『参同契』を重視した理由については、ある程度の考察がなされているが(吾妻重二『朱子学の新研究』、創文社、2004)、一方の『陰符経』を重視した理由については解明されておらず、これも一つの謎である。更に、朱熹以前に成立した唐淳『陰符経注』が金丹の立場からなされた注釈であることから分かる様に、南宋・元・明の『陰符経』注の主流は金丹道の立場に立つものである。全真教もその流れの上に在る。しかしながら、朱熹が『朱子語類』で言及した『陰符経』の内容には金丹的側面は全く見

られない。朱熹がどの様に『陰符経』を理解していたのか、これも一つの謎である。

## 2. 研究の目的

従来の『陰符経』研究では、『陰符経』そのものの成立と思想を研究したもの、諸注釈の全体像を概観したもの、『朱子語類』そのものの分析に留まっている。しかし、「背景」の(1)(2)で述べた事柄と、従来の研究に対する反省に立つならば、現存する『陰符経』諸注の中で、先ず北宋期に成立した注釈に注意しなければならない。何故ならば、これら北宋期注釈には金丹道としての側面は実は見られないからである。この点は、朱熹の道家思想理解の多くが北宋期の道家思想に対する理解に基づくものであることと一致している。又、唐淳『陰符経注』は金丹道としての性格が強いが、その思想の一部は北宋の『陰符経』を巡る思想を継承する側面も持つ。

この様に見るならば、全真教思想の成立、朱熹の『陰符経』理解という、近世道教思想史の大きな二つの謎を考える上で、北宋期の『陰符経』諸注の内容を、先入観を排除して先ず検討し、そこから、南宋、金の『陰符経』注への展開を跡付けることが重要であることが謎の解明に有効な方法であることが分かり、これら『陰符経』諸注の思想解明が、近世以降の儒教・道教思想交流の実態理解に大きな変更を迫るものと考えられる。

以上の状況を鑑み、本申請研究では、基礎的作業として、先ず、『陰符経』「校本」を作成し、詳細な『陰符経』諸注の「解題」を作成し、思想的検討として北宋期諸注から唐淳『注』成立までの思想的経緯を解明することを目的とする。

## 3. 研究の方法

現存『陰符経』諸注の思想的解明を唐淳『陰符経注』までを目途に分析する。併せて、「校本『陰符経』」を作成し、テキスト問題

を整理する。これらの作業を成果を踏まえて、「『陰符経』注釈解題」を作成し、諸注釈の関係を整理をする。そして、これらの基礎作業の成果を下に、近世思想史における『陰符経』を巡る謎を解明する。

#### 4. 研究成果

個々の『陰符経』諸注のテキスト問題と、その思想内容を検討したことで、個々の『注』を近世道家道教思想史上に位置付けることが出来たと同時に、諸『注』相互の関係を一定程度解明することが出来た。それを下に、『陰符経』諸注の思想内容の変遷を解明することで、朱熹及び全真教への流れを追うことが出来た。

これらの成果を踏まえて『報告書』を作成したその内容は以下の通りである。

##### 第一部 総論篇

はしがき

##### 第一章 『陰符経』の編者と撰述時期

##### 第二章 校本『陰符経』

##### 第三章 唐宋人の『陰符経』への言及について

##### 第四章 『陰符経』諸注解題

##### 第二部 論考篇

はしがき

##### 第一章 宋代に於ける『陰符経』の受容について

##### 第二章 北宋『陰符経』諸注浅析

##### 第三章 唐淳『黄帝陰符経注』の思想と道教思想史上の位置

##### 第四章 夏元鼎思想研究之一—『黄帝陰符経講義』を中心に

##### 第五章 夏元鼎思想研究之二—『悟真篇講義』を中心に—

##### 第六章 劉処玄『黄帝陰符経注』再考

##### 第七章 侯善淵思想浅析

##### 第八章 「元陽子」小考

##### 第九章 「安樂法」小考

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

山田俊、宋代に於ける『陰符経』の受容について、査読有、東方宗教、123、2014、62-82。

山田俊、唐淳『黄帝陰符経注』の思想と道教思想史上の位置、査読無、熊本県立大学大学院文学学研究科論集、7、2014、1-24。

山田俊、夏元鼎思想研究之一 『悟真篇講義』を中心に、九州中国学会報、53、2015、15-29。

山田俊、「元陽子」小考、査読有、正学、3、2015、216-230。

山田俊、「安樂法」小考、査読有、道教研究学報：宗教、歴史与社会、7、2015、15-29。

[学会発表](計5件)

山田俊、北宋に於ける『陰符経』の受容について、日本道教学会第六十四回大会、2013、11、早稲田大学。

山田俊、唐淳『黄帝陰符経注』の思想と其道教思想上的意義、第一屆東亜宗教文化国際學術研討会：東亜宗教的伝統性と現代性、華東師範大学(中国上海)、2014、5

山田俊、夏元鼎『悟真篇講義』の思想及其在道教思想上的意義、第三屆国國際道教論壇、鷹潭(中国江西省)、2014、6。

山田俊、劉処玄『黄帝陰符経注』について、シンポジウム：「道教史の新たな展望」、皇學館大學、2015、3。

山田俊、夏元鼎『黄帝陰符経講義』について、京都大学人文科学研究所人文諸領域の複合的共同研究国際拠点「古典解釈の東アジア的展開 宗教文献を中心課題として」研究会、京都大学人文科学研究

所、2015、4。

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

無し

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山田 俊 (YAMADA TAKASHI)

熊本県立大学・文学部・教授

研究者番号：30240021

### (2)研究分担者

無し

### (3)連携研究者

無し